

2023 第2回サッカー日本代表候補合宿 [マッチレポート]



日時	2023年5月2日 9:20					試合形式	45分,30分×2				
会場	さくらスタジアム					ピッチ状態	天然芝				
日本代表			2	2	1set	0	宇都宮短期大学附属高校			3	
				0	2set	0					
				0	3set	3					
警告・退場	3set	2set	1set	チーム合計			1set	2set	3set	警告・退場	
	3	1	4	8	シュート	19	5	3	11		
	4	7	7	18	GK	9	1	5	3		
	0	5	1	6	CK	15	7	2	6		
	0	2	0	2	直接FK	6	3	2	1		
	2	2	2	6	間接FK	0	0	0	0		
	2	2	2	6	(オフサイド)	0	0	0	0		
	0	0	0	0	PK	0	0	0	0		

【日本】

【宇都宮短期大学附属高校】



【得点経過】

- 34分[日本] 大野が右サイドからニアにクロスボールを入れ、梅村がキーパー前にてヘディングシュート。
- 43分[日本] 佐藤が右サイドからファーサイドにクロスボールを入れ、武田がワンタッチシュート。
- 75分[宇短] キックオフゴール。(NO.20がバックパス → NO.7がワンタッチシュート。追い風によりそのままゴールネットを揺らす)
- 98分[宇短] コーナーキックにて、NO.7がニアにグラウンダーのボールを入れNO.11が空振り。後ろに流れたボールをNO.19がコントロールし、シュート。
- 103分[宇短] 日本のパスミスを利用しNO.16がNO.11にワンタッチパス。NO.11がコントロールしNO.19にパス。NO.19がペナルティーエリア内にドリブルで侵入しシュート。

【交代】

45分	[宇短]	IN NO. 7	⇔	OUT NO. 2
		IN NO. 13	⇔	OUT NO. 3
59分	[日本]	IN 犬塚	⇔	OUT 佐藤
65分	[日本]	IN 越智	⇔	OUT 下鶴
	[宇短]	IN NO. 1	⇔	OUT NO. 17
		IN NO. 11	⇔	OUT NO. 10
		IN NO. 16	⇔	OUT NO. 6
		IN NO. 19	⇔	OUT NO. 14
		IN NO. 20	⇔	OUT NO. 9
		IN NO. 23	⇔	OUT NO. 15
		IN NO. 25	⇔	OUT NO. 8
69分	[日本]	IN 山田	⇔	OUT 奥田
73分	[日本]	IN 石綿	⇔	OUT 福原
75分	[日本]	IN 荻野	⇔	OUT 徳村
		IN 海野	⇔	OUT 吉川
		IN 斎藤	⇔	OUT 大野
		IN 阿久津	⇔	OUT 武田
88分	[宇短]	IN NO. 6	⇔	OUT NO. 5
92分	[日本]	IN 下鶴	⇔	OUT 越智

ゲームコンセプト

- ・個々の持っている技術、走力、強さ、メンタルを全て出し切る。
- ・チームでの良い守備から攻撃へ

攻撃

- ①プレーの原則
 - ・突破→サポート→幅・深み→モビリティ→創造性
- ②個人戦術
 - ・**ボールを持っている時** →シュート、ドリブル、前を向かせるパス
 - ・**ボールを持っていない時** →マークを外す「チェック、プルアウェイ、ダイアゴナル」
サポート「ボール状況→背後、保持、緊急」
コンビネーション「ワンツー、オーバーラップ、3人目」
- ③サイド攻撃
 - ・ニアゾーン侵入、フィニッシャーの入る場所

守備

- ①プレーの原則
 - ・プレス→遅らせる→コンパクト→コントロール→バランス
- ②個人戦術
 - ◆**ボールオフ**
 - ・ボールの移動中
 - ・マークの原則→ボールとマークの同一視
 - 良いポジション[インターセプトor背後をとられない]
 - ◆**ボールオフ→オンへ**
 - ・チャレンジの優先順位(インターセプト、コントロール際、前を向かせない
 - ※チャレンジ&カバー&スライド、プレスバック、サイドプレス
- ③前線の守備、中盤の守備への移行

ゲーム内容

強風が吹き荒れる中、日本（向かい風）のキックオフでゲームがスタートした。宇短附属は、ディフェンスラインからビルドアップをしてきており、前線の選手は流動的にポジションをとっていた。それに対して日本も、相手状況を観ながら、GK 徳村からのビルドアップにトライして、GK からセンターバックを経由し、ボランチやサイドバック、または相手ディフェンスラインの背後を狙って攻撃を仕掛けた。守備面でも、GK がボール状況を観ながら高いポジションを取り、ディフェンスラインの背後をしっかりとケアしていたり、チャレンジ&カバーの連続により、特にゴール前ではボールの正面に入ったり、シュートコースを消してブロックしたりと粘り強い守備が多くあった。また、スリーライン（GK を含めたフォーライン）をコンパクトにできている時間帯では、ラインコントロールもしっかりとなされ、必然的にオフサイドを取ることもできていた。その成果により、1・2セット目は無失点に抑えることができた。しかしその反面、マイボールを簡単にスローインやコーナーキックにしてしまう場面も見られた。攻撃面では、ワンタッチやツータッチプレーが連続している時は、選手の距離感やサポートも良く、テンポ良く攻撃することができていた。得点シーンに関しては、1 本目の3 4分、相手クリアーボールを武田が拾い、バイタルエリア付近でFW 奥田が受けて右 SB 大野に展開。大野がドリブルで少し仕掛けてニアにクロスを上げ、相手 GK 前でFW 梅村がヘディングで合わせて先制点を奪う。同じく4 3分、相手コーナーキックをGK 徳村がキャッチ。そのまま左サイドにスローし、流れてきたFW 山田が受ける。前向きにドリブルを始めた山田をVO 武田が外側から追い越すサポートをし、パスを受けそのままドリブルで駆け上がりクロスボールを上げるがファーサイドに流れる。そのボールを梅村が追いかけて取り、右SH 佐藤にパス。佐藤が右サイドからクロスを上げ、相手ディフェンス陣がボールウォッチャーになっているところを、ファーサイドにポジションを取っていた武田がボレーシュート。2点目の追加点を奪う。日本チームが大きくメンバーを入れ替えた3セット目。向かい風の中、相手キックオフで始まり、NO.20 のバックパスをNO.7 がワンタッチシュート。GK 荻野がペナルティーエリアギリギリの位置にポジションを取っており、慌ててバックステップを踏むものの、シュートは追い風に乗りそのままゴールネットを揺らし1 失点。3セット目2 3分、コーナーキックで、NO.7 がニアにグラウンダーのボールを入れNO.11 が空振り。後ろに流れたボールをNO.19 がコントロールし、シュート。2失点目となる。3セット目2 8分、SB 海野の自陣でのパスミスでNO.16 がNO.11 にワンタッチパス。NO.11 がコントロールし左サイドにいたNO.19 にパス。NO.19 がペナルティーエリア内にドリブルで侵入し冷静に右隅にシュート。3失点目となり逆転を許す。試合終了間際に日本の決定機もあったが枠外シュートとなり、試合終了となった。